

第06回

- 講演者：山本 修司 氏（東京大学）
 - 題目：円周率で表される多重ゼータ値の和
 - 日時：平成23年7月22日（金）16：30～17：30

多重ゼータ値 $\zeta(k_1, \dots, k_n)$ (k_1, \dots, k_n は正の整数, $k_1 > 1$) またはそれらの有限和に対して、その値が円周率の冪の有理数倍として求められることがある。このような例としては、有名な $\zeta(2k)$ のほか $\zeta(2, 2, \dots, 2)$ や $\zeta(3, 1, 3, 1, \dots, 3, 1)$ の値、さらにこれらの一般化として Bowman-Bradley の定理などが知られている。また等号付き多重ゼータ値に関する類似として近藤 - 斎藤 - 田中の定理がある。この講演ではこれらの定理や関連する予想について、最近得られた結果を交えて紹介したい。



.lg-outer.lg-pull-caption-up.lg-thumb-open .lg-sub-html {bottom:80px;}

13 images

From:

<https://wiki.ma.noda.tus.ac.jp/> - (旧)理工学部 数学科

Permanent link:

<https://wiki.ma.noda.tus.ac.jp/seminar/2011/006>

Last update: **2017/11/17 00:58**

